CASBEE® 熊本《新築》【 性能表示 】

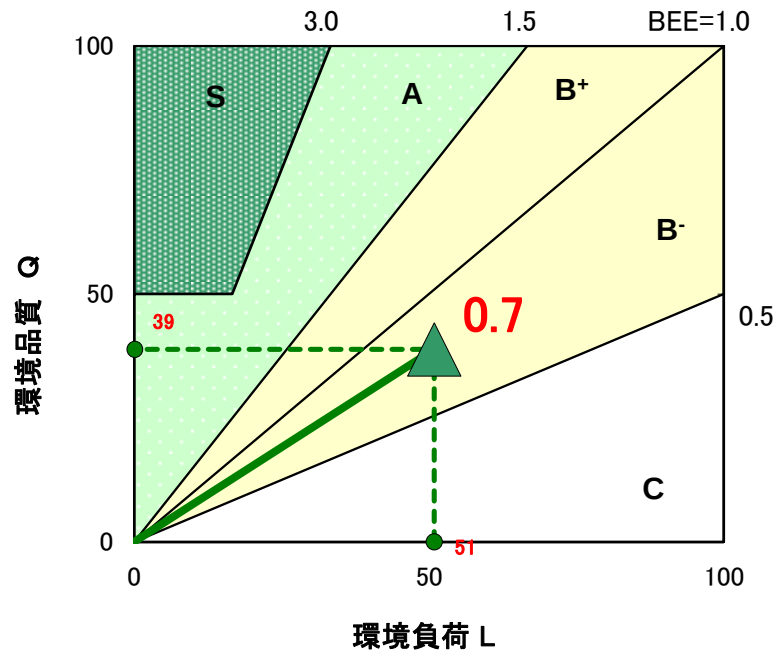
■ 建物概要			
建物名称	（仮称） アーガス･レーヴ室園　新築	階数	地上12F
建設地	熊本県熊本市北区室園町608番6外	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	138　人
気候区分		年間使用時間	8,760　時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年5月　　0.0	評価の実施日	2018年12月25日
敷地面積	1,253 ㎡	作成者	安堂　文人
建築面積	357 ㎡	確認日	2018年12月27日
延床面積	2,884 ㎡	確認者	安堂　文人

■ 外観

1　CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

★★☆☆☆



BEE = 0.7

■BEE（環境効率） = Q（環境品質） / L（環境負荷）

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B^+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B^-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ ライフサイクルCO_2排出性能（ランク表示）

☆☆☆☆☆

排出率

92%

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値（排出率）	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

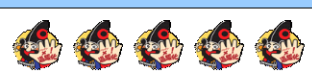
2　熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点：67

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	75.3
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	56.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	62.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	67.2

■熊本県重点評価基準

判定値（評価点）	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要

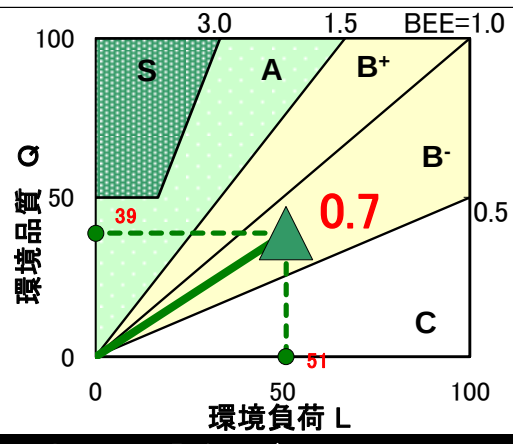
建物名称	（仮称）アーガス･レーヴ室園　新築	階数	地上12F
建設地	熊本県熊本市北区室園町608番6外	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	138　人
気候区分		年間使用時間	8,760　時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年5月　0.0	評価の実施日	2018年12月25日
敷地面積	1,253 ㎡	作成者	安堂　文人
建築面積	357 ㎡	確認日	2018年12月27日
延床面積	2,884 ㎡	確認者	安堂　文人

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

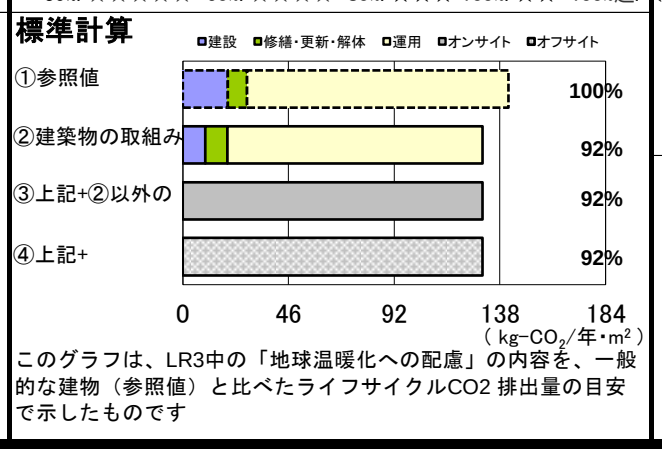
BEE =0.7

S: ★★★★★ A: ★★★★ B⁺: ★★★ B⁻: ★★ C: ★



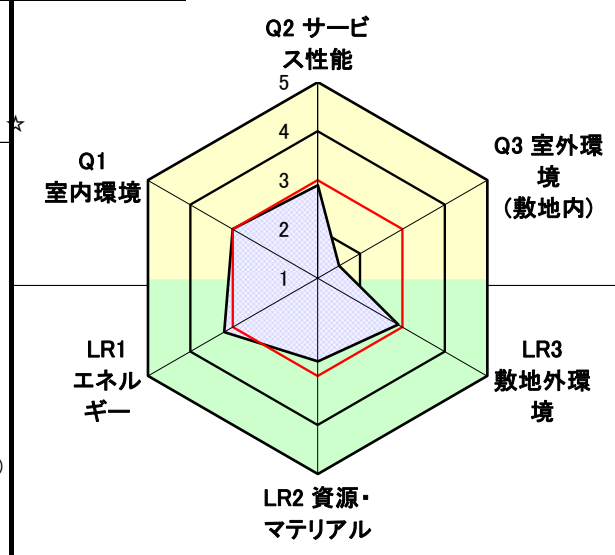
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

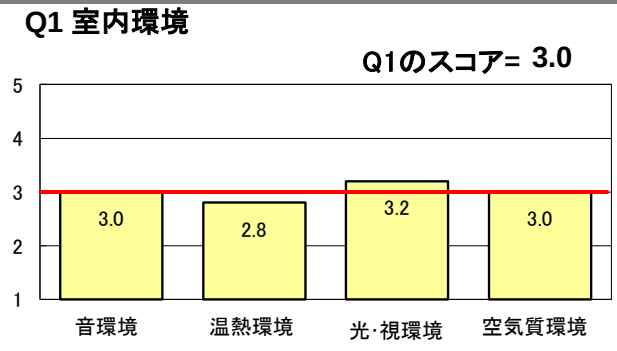
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



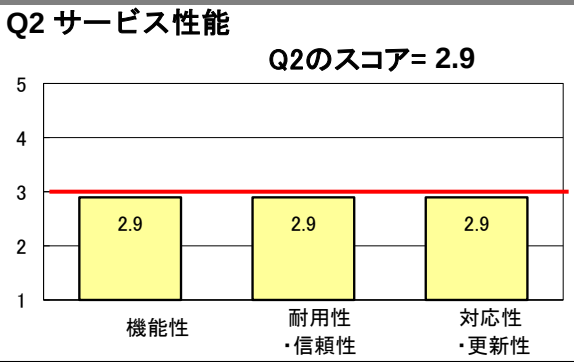
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.5

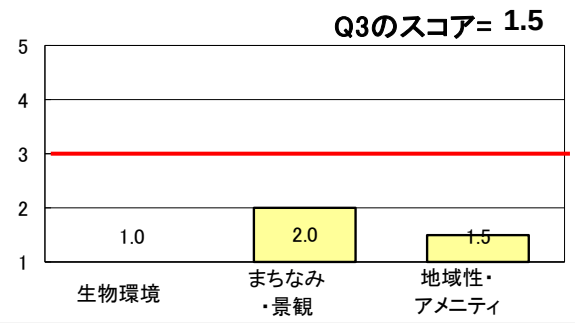
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.9

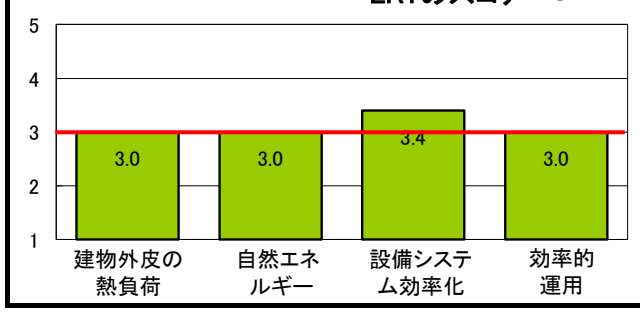


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 1.5

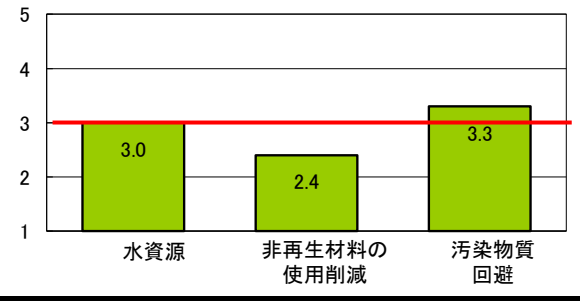


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 2.9

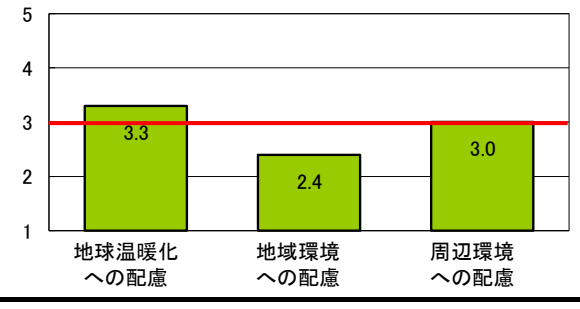
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.2



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 2.7



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=2.9



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 67

重点事項1：温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 75.3

重点事項2：安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 =56.2

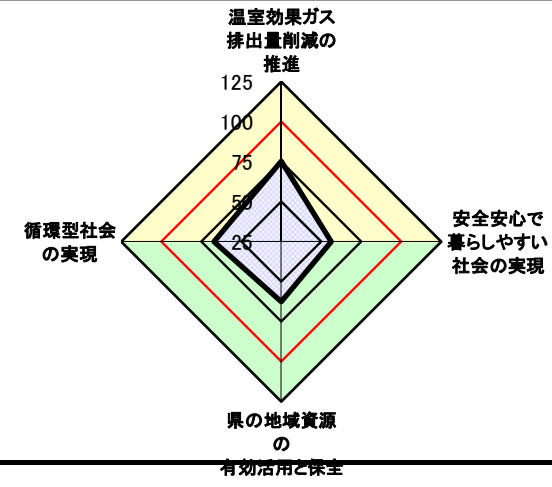
重点事項3：県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 62.5

重点事項4：循環型社会の実現

評価点 =67.2

重点事項の評価（レーダーチャート）



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産･建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE−建築(新築)2014年版
(仮称) アーガス・レーヴ室園 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								**2.5**
Q1 室内環境					**0.40**		-	**3.0**
1 音環境				**3.0**	0.15	**3.0**	1.00	**3.0**
1.1 騒音				3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音				**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
	1	開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	
	2	界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				**3.0**	-	**3.0**	-	
2 温熱環境				**1.6**	0.35	**3.0**	1.00	**2.8**
2.1 室温制御				**2.3**	0.50	**3.0**	0.50	
	1	室温		2.0	0.63	3.0	0.63	
	2	外皮性能		3.0	0.38	3.0	0.38	
	3	ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御				**1.0**	0.20	**3.0**	0.20	
2.3 空調方式				**1.0**	0.30	**3.0**	0.30	
3 光・視環境				**3.0**	0.25	**3.3**	1.00	**3.2**
3.1 昼光利用				**4.2**	0.30	**4.0**	0.30	
	1	昼光率		5.0	0.60	5.0	0.50	
	2	方位別開口		-	-	3.0	0.30	
	3	昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				**2.0**	0.30	**3.0**	0.30	
	1	昼光制御		2.0	1.00	**3.0**	1.00	
3.3 照度				**3.0**	0.15	**3.0**	0.15	
3.4 照明制御				**3.0**	0.25	**3.0**	0.25	
4 空気質環境				**3.0**	0.25	**3.0**	1.00	**3.0**
4.1 発生源対策				**3.0**	0.60	**3.0**	0.63	
	1	化学汚染物質	専用部は、建築材料をほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用している。	3.0	1.00	3.0	1.00	
	2	アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気				**3.0**	0.40	**3.0**	0.38	
	1	換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
	2	自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33	
	3	取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
	1	CO_2の監視		3.0	-	-	-	
	2	喫煙の制御		3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能				–	**0.30**	-	-	**2.9**
1 機能性				**2.8**	0.40	**3.0**	1.00	**2.9**
1.1 機能性・使いやすさ				**3.0**	0.40	**3.0**	0.60	
	1	広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
	2	高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	1.00	
	3	バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				**3.0**	0.30	**3.0**	0.40	
	1	広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50	
	2	リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
	3	内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				**2.5**	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
	3	衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				**2.9**	0.30	-	-	**2.9**
2.1 耐震・免震				**3.0**	0.50	-	-	
	1	耐震性		3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				**3.0**	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数		4.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	ボーダータイル、二丁掛タイル、45丁掛けタイル、複層塗装E	2.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性			2.6	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備	1.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			2.2	0.30	3.1	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	
	1	階高のゆとり	3.0	-	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			2.2	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	2.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	2.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	1.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）			–	0.30	-	-	1.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		敷地内の緑化	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			–	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		給湯器(潜熱回収型)を採用することにより省エネルギーを実現。	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI　非住宅 1.00　住宅(専有部) 1.05	3.4	0.50	-	-	3.4
集合住宅以外の評価(3a.3b)			3.0	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)			3.4	1.00	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水		節水型便器を採用している。	3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		高炉セメント	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		床下地：パーティクルボード	2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着剤など有害物質を含まない材料を使用している。	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	-	-	-	-	
	2	発泡剤（断熱材等）	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		積極的な省エネルギー対策	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		敷地内の緑化	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	3.0	0.33	-	-	
	2	振動	3.0	0.33	-	-	
	3	悪臭	3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	1.0	-			
	3	日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

Q1 室内環境

専用部は、建築材料をほぼ全面的にＦ☆☆☆☆を採用している。

Q2 サービス性能

ボーダータイル、二丁掛タイル、４５丁掛けタイル、複層塗材Ｅ
壁：ビニルクロス、廊下・床：フローリング

Q3 室外環境（敷地内）

敷地内の緑化。
住戸数分の駐車場を確保した。

LR1 エネルギー

給湯器(潜熱回収型）を採用することにより省エネルギーを実現。
照明器具は省エネ効果が高いＬＥＤ照明を採用した。

LR2 資源・マテリアル

節水型便器を採用している。
接着剤など有害物質を含まない材料を使用している。
不活性ガス消火剤を使用している。

LR3 敷地外環境

積極的な省エネルギー対策。
敷地内の緑化。
自転車置場、駐車場を確保し動作が交差しないように配慮。
建設・運用でＣＯ２排出量を抑えている。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート　　実施設計段階

建物名称	*（仮称）アーガス・レーヴ室園　新築工事*

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)　　■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		67
重点事項 / 重点項目（配慮項目）		スコア	重み係数	評価点	重点事項重み係数	評価配点
① 温室効果ガス排出量削減の推進				75.3	0.40	30.12
Q1-2.1.2	外皮性能	*3.0*	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	*3.0*	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	*2.9*	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	*3.0*	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	*3.0*	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	*3.4*	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	*2.0*	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	*3.0*	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				56.2	0.20	11.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	*3.0*	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	*3.0*	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	*1.0*	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	*1.5*	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	*2.0*	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				62.5	0.20	12.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	*2.0*	0.20			
LR2-1.1	節水	*3.0*	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	*3.0*	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	*2.0*	0.30			
④ 循環型社会の実現				67.2	0.20	13.44
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	*3.0*	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	*3.0*	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	*3.0*	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	*3.0*	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	*1.0*	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数